

平成 28 年(2016 年) 1 月 26 日公表
教育委員会事務局学校教育課

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査結果の
追加分析について

滋賀県教育委員会事務局学校教育課

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の追加分析について

「学ぶ力向上 滋賀プラン」の「授業を改善する」の視点に注目し、児童生徒質問紙、学校質問紙の項目をもとに、授業の展開、学習習慣づくりや学習支援のあり方、全校体制での授業改善の取組、子どもたちの多様性を踏まえた指導について、次の①から⑤までの内容を設定して、県全体の学力状況との関係をグラフに表して分析した。

1. 取り上げた児童質問紙・生徒質問紙（☆）、学校質問紙（★）の項目

①「めあて、自力解決、意見交流、まとめ・振り返り」等の授業スタイルと学力との関連

(☆41) 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

(☆43) 授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

(☆40) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。

(☆45) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

(☆46) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

(☆42) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

②学びの習慣性と学力との関連

(☆13) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

(☆20) 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

(★小 94、中 92)家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。

③励まし、声かけなどの適切な支援と学力との関連

(★43) 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか。

④授業研究会の取組や校内外での教職員の協力体制と学力の関連

(★小 103・中 101) 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。

(★小 105・中 103) 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか。

(★小 104・中 102) 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

⑤児童生徒の多様性を踏まえた指導の充実と学力の関連

(★小 79・中 78) 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか。

(☆25) あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思いますか。

(☆26) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

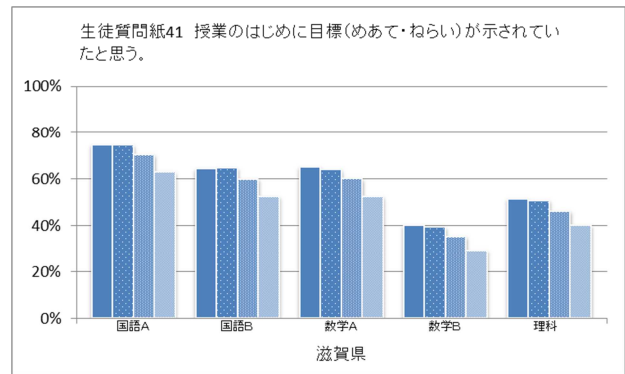
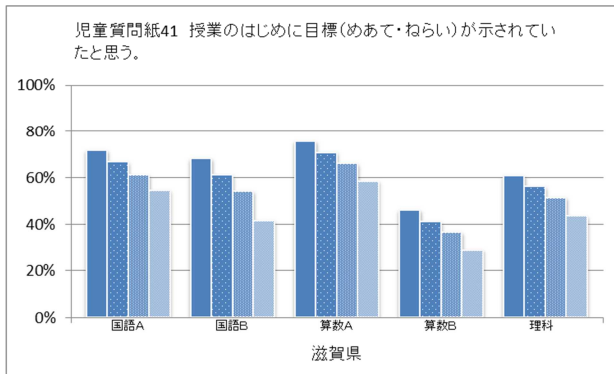
2. 学ぶ力向上を図る追加分析

※各グラフの縦軸は、各教科の項目ごとの正答率を示しています。

- ①「めあて、自力解決、意見交流、まとめ・振り返り」等の授業スタイルと学力との関連
・授業のはじめに目標(めあてやねらい)が示されていますか。など(児童・生徒質問紙)

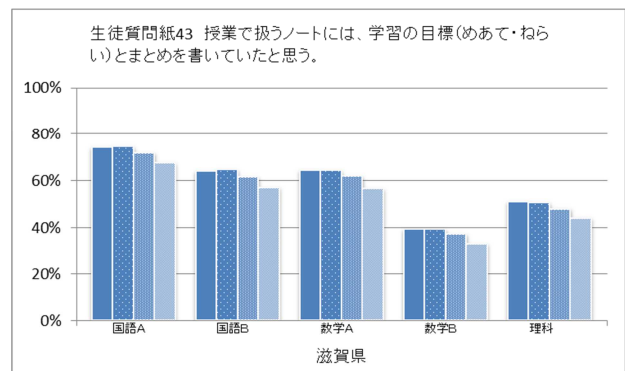
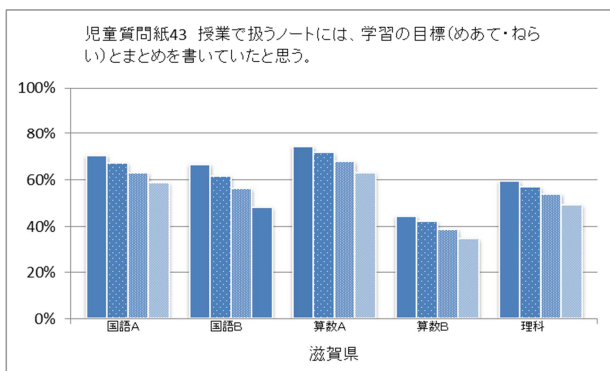
小学校

中学校



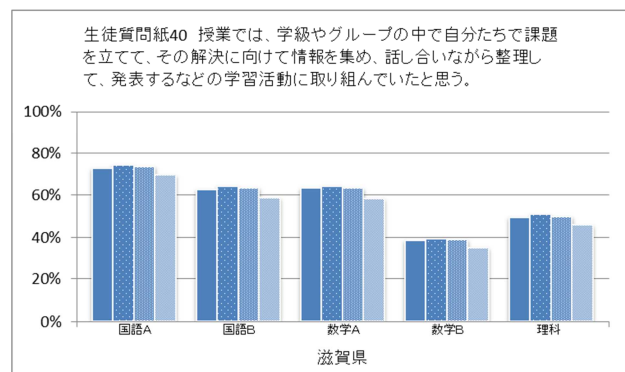
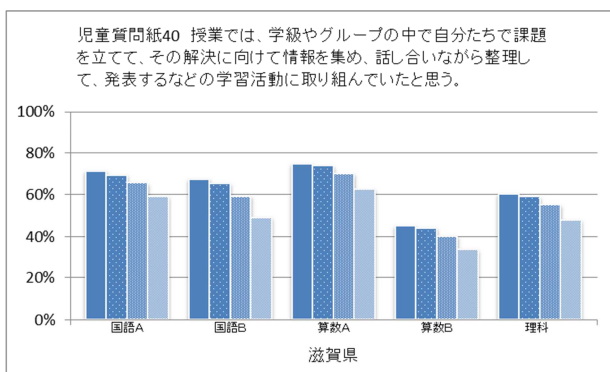
各教科の項目(左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない



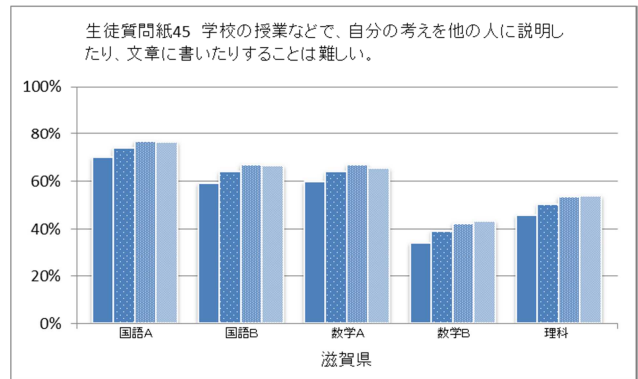
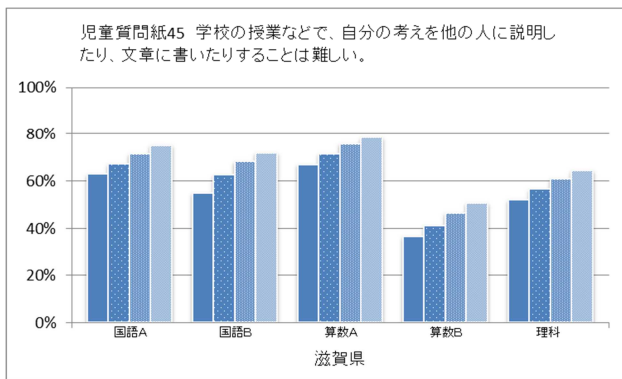
各教科の項目(左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない



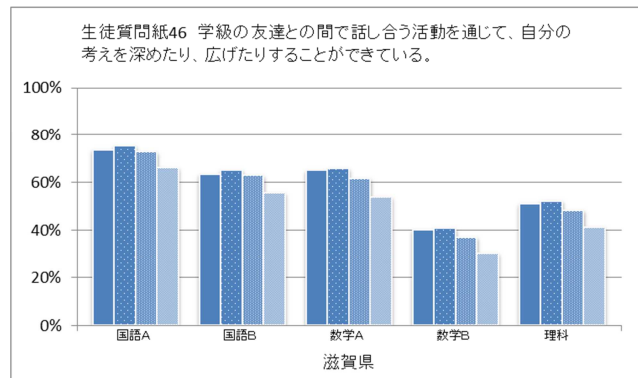
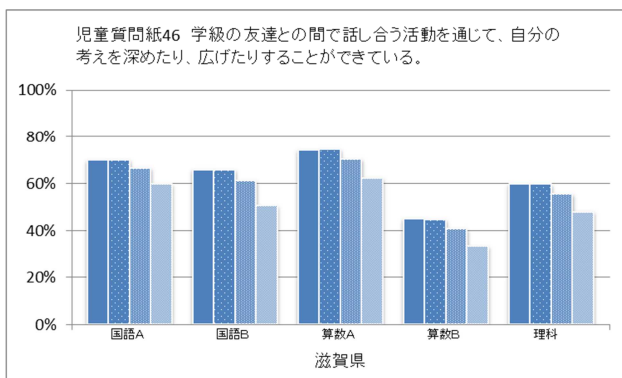
各教科の項目(左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない



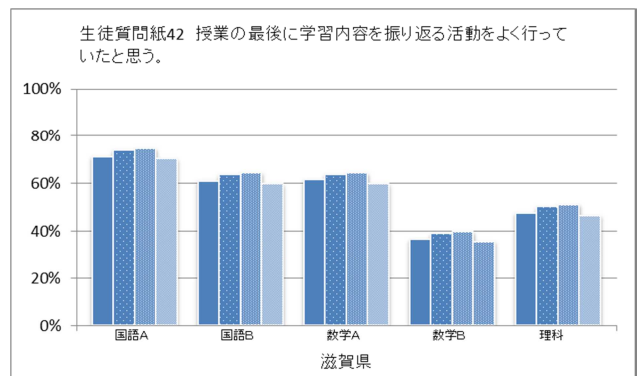
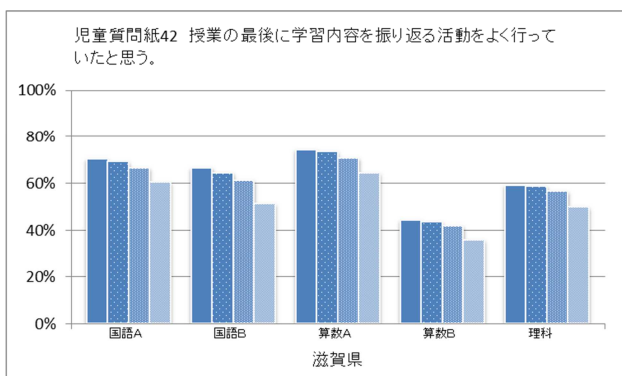
各教科の項目 (左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない



各教科の項目 (左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない



各教科の項目 (左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない

子どもたちの学びの力を高めていくためには、授業について「めあて・課題の設定」「自力解決」「グループでの話し合い」「学級全体での学び合い」「まとめ・振り返り」という学習の流れが位置付けられていることが大切です。

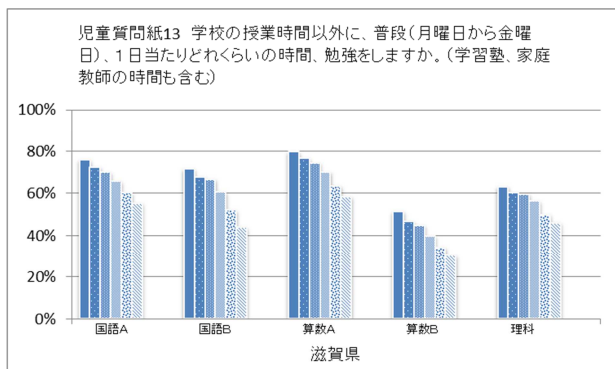
学習の目標を子どもたちが意識する(教員と共有する)ことや、授業の最後に振り返る活動が設定されることが、学習内容の定着につながるということが読み取れます。また、自分で考えることを大切にしながらも、友だちと学び合い考え、自分とちがう考えにふれることで、自分の理解をさらに深めることができます。

授業が終わったときに、子どもたち自身が「今日は〇〇を学習した」「〇〇がわかった、できた」と認識できるように、それぞれの学習活動に関連性があることや目標と振り返りが一体化していることが大切です。思考力、判断力、表現力を確かに身に付け、課題解決に探究的に取り組む学習指導が展開されることが必要です。

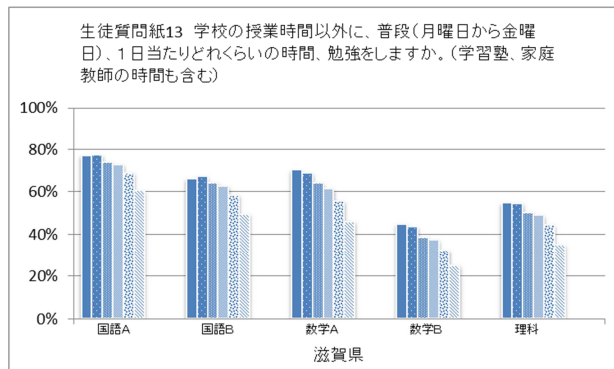
②学びの習慣性と学力調査との関連

- ・家庭での学習の充実（児童・生徒質問紙、学校質問紙）

小学校

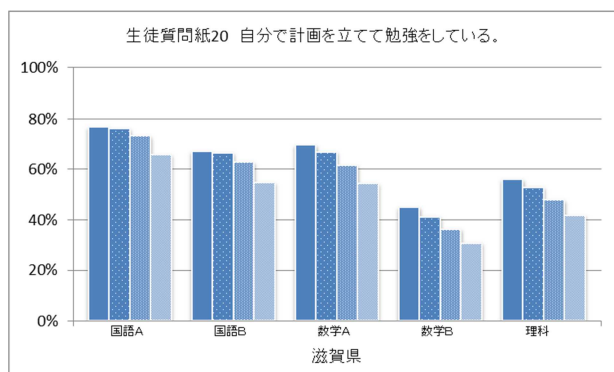
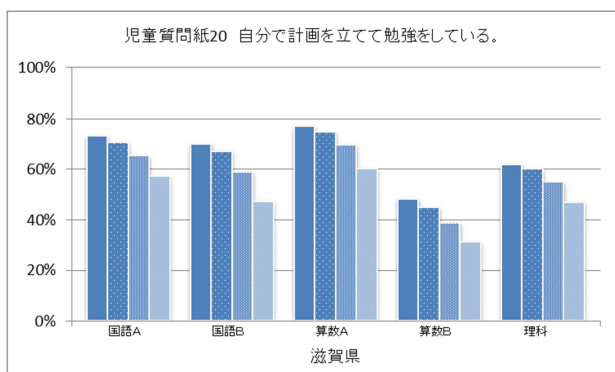


中学校



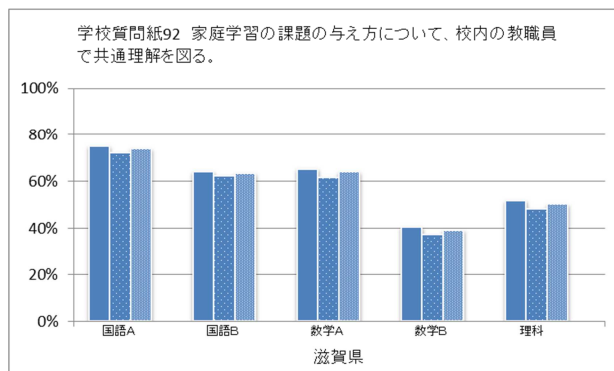
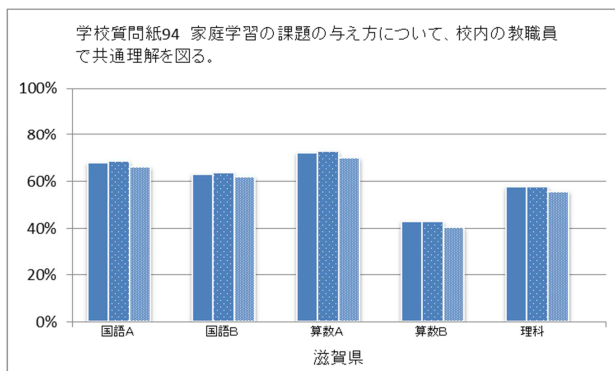
各教科の項目（左から）

3時間以上/2時間以上、3時間より少ない/1時間以上、2時間より少ない/30分以上、1時間より少ない/30分より少ない/全くしない



各教科の項目（左から）

よくしている/どちらかといえば、していない/あまりしていない/全くしていない



各教科の項目（左から）

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない

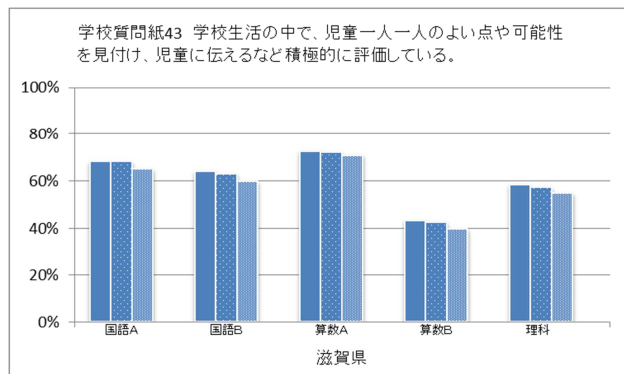
学習時間と正答率とは一定の関連があることが明らかとなりました。学校で学んだことを振り返って定着させていくことや、学習のなかで興味をもったことを自分で主体的に学んでいく学習習慣づくりが大切です。

学校においては、授業と家庭学習を関連付けていくことや、どのように家庭で学習すればよいのかといったことを子どもたちへ指導すること、家庭とどのように連携して子どもの家庭学習を確立していくかといったことを、校内で十分に検討して改善に向けて取り組んでいくことが必要です。

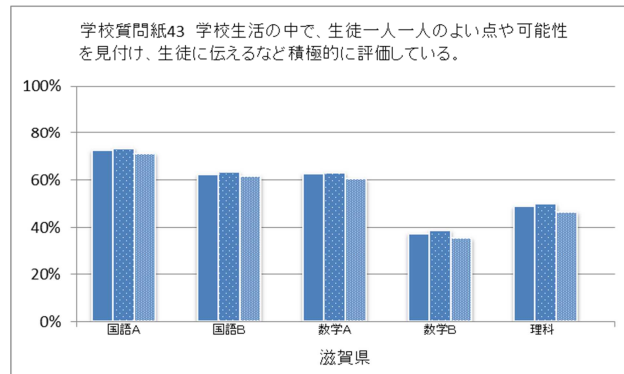
③励まし、声かけなどの適切な支援と学力との関連

- ・学校生活の中で、児童一人ひとりの良いところや可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなどの評価をしているか。など（学校質問紙）

小学校



中学校



各教科の項目（左から）

よく行った/どちらかといえば、行った/あまり行っていない/全く行っていない

学ぶ力を育てていくには、子どもたちの自尊感情や自己効力感を高めることが大切であり、一人ひとりの子どもの良い点や可能性を見つけて、伝えることが必要です。

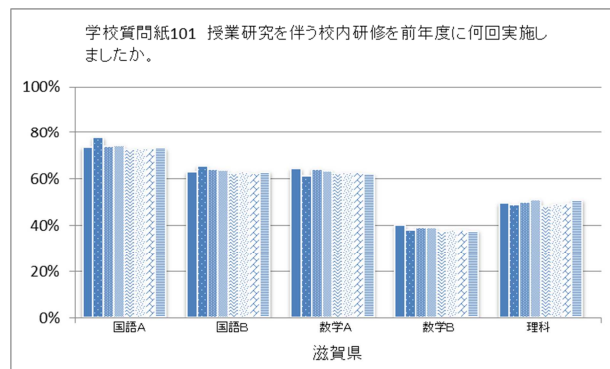
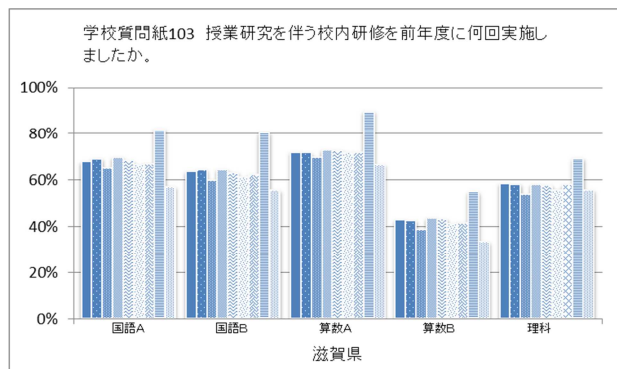
他者との比較の視点だけでなく、その子ども自身の良い点をみつけていくことや、可能性を育てていくことを、その子どもとかかわりのあるすべての教員が実践していくことが大切です。保護者との連携も大切であり、さまざまな情報を適切に共有していくことが必要です。

④授業研究会の取組や教職員の協力関係と学力の関連

- ・授業研究を伴う校内研修の回数（学校質問紙）
- ・学習指導と学習評価の計画作成に当たって、教職員が協力しているか。など（学校質問紙）

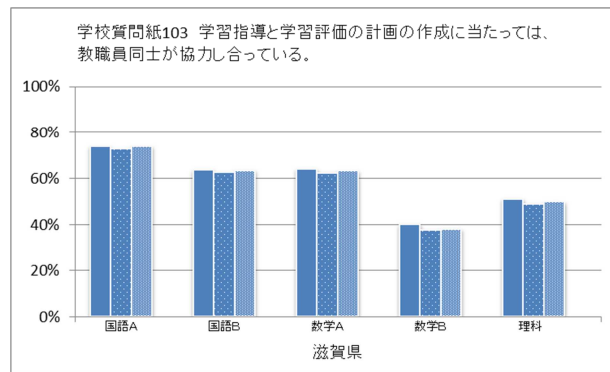
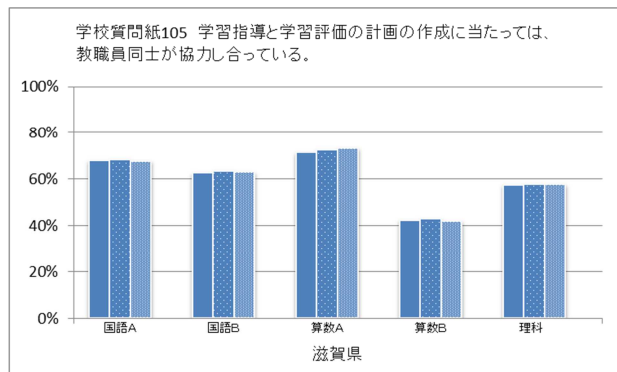
小学校

中学校



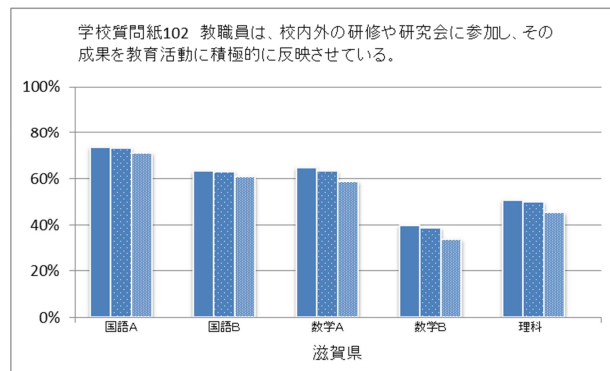
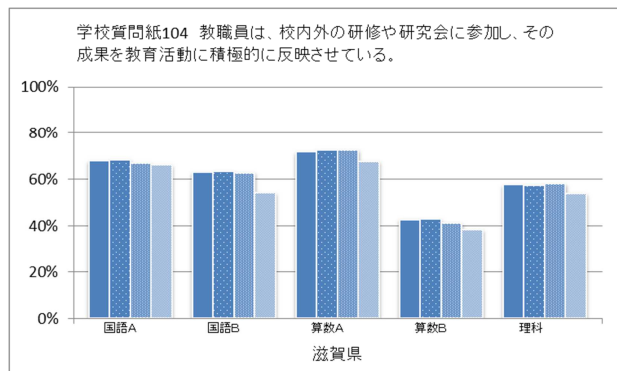
各教科の項目（左から）

年間15回以上/年間13回～14回/年間11回～12回/年間9回～10回/年間7回～8回/年間5回～6回/年間3回～4回/年間1回～2回/実施していない



各教科の項目（左から）

よくしている/どちらかといえば、している/あまりしていない/全くしていない



各教科の項目（左から）

よくしている/どちらかといえば、している/あまりしていない/全くしていない

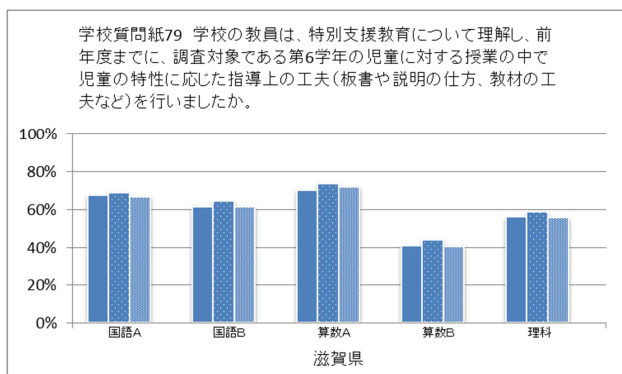
授業研究や校内研修等と正答率との関連は見出しにくいように捉えられますが、学習指導と学習評価の計画作成に当たっては、授業研究に積極的に取り組み、授業での子どもの変容や状況をみとる力量を高めることや、研究会等で学んだことを自らの教育活動に生かしていくが大切です。

若手教員が増えつつあるなかで、全校体制で協力して取り組まねばなりません。授業の改善を図っていくために、職員間の同僚性を高めていながら、改善のねらいを焦点化した校内研究や研修を推進していくことが必要です。

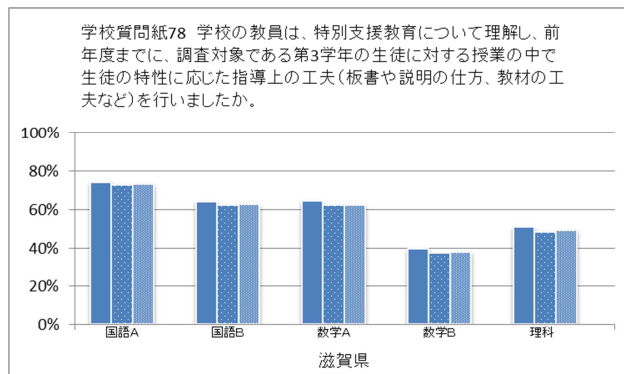
⑤児童生徒の多様性を踏まえた指導の充実

- ・特別支援教育について理解し…児童の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか。など
(学校質問紙)

小学校

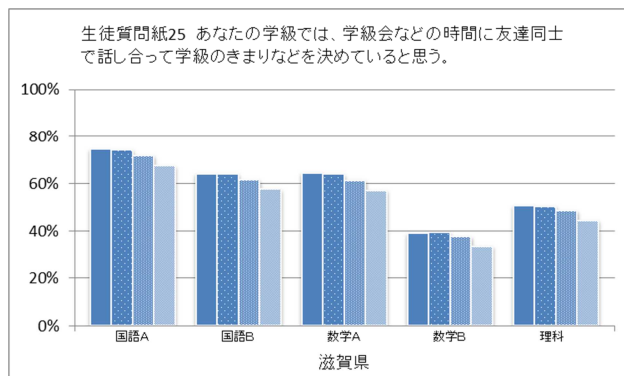
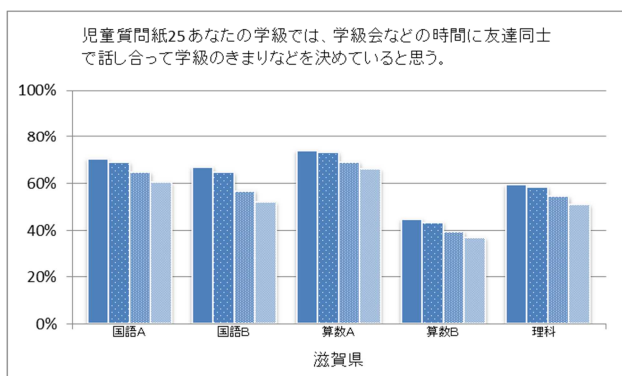


中学校



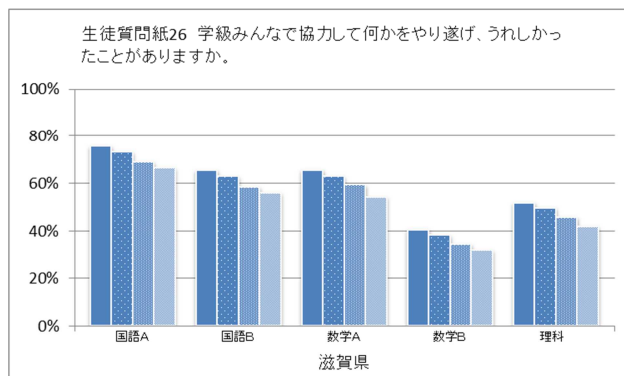
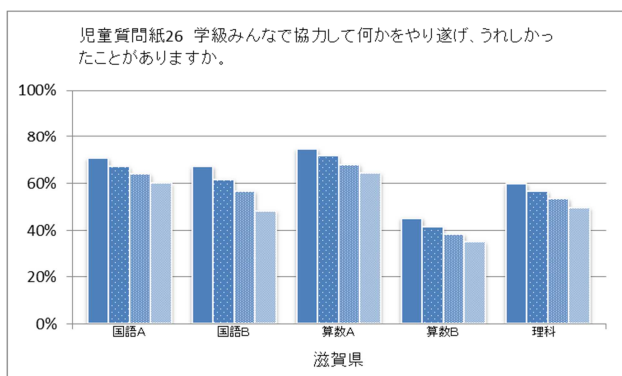
各教科の項目(左から)

よく行った/どちらかといえば、行った/あまり行っていない/全く行っていない



各教科の項目(左から)

そう思う/どちらかといえば、そう思う/どちらかといえば、そう思わない/そう思わない



各教科の項目(左から)

当てはまる/どちらかといえば、当てはまる/どちらかといえば、当てはまらない/当てはまらない

特別支援教育の視点のみならず、学級の子どもたち一人ひとりの「わかった」「できた」を実現していくために、指導上の工夫改善(板書や説明の仕方、教材の工夫など)に、全校体制で取り組むことが大切です。一人の子どもの「わかった」を実現する取組が、他の子どもたちにとっても「わかった」を実現する有効な取組となることは、授業の工夫の中に見られることです。

また、子どもたちが自分の学級のことを自分のこととして主体的に考え、話し合うことは、社会性や自立心を育てます。一人ひとりの子どもの特性をよく理解し、自主的、実践的な態度を育てる学級経営や学習指導を展開することが必要です。

3. 学ぶ力向上を図る学校の取組事例

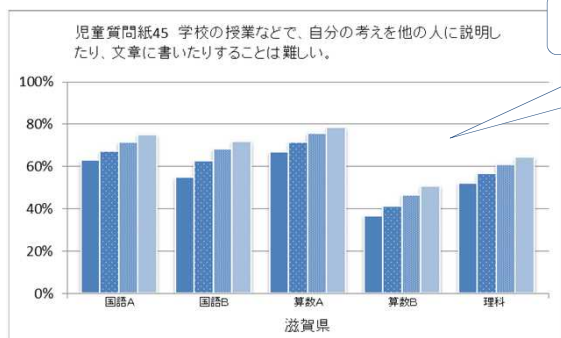
1. で分析した学校改善、授業改善の5つの視点から、取組において成果のみられる学校について、その取組事例としてまとめた。各学校ともに、①から⑤の視点に今後の県内各市町の学校改善や授業改善が進むことに資するものとする。

- ①「めあて、自力解決、意見交流、まとめ・振り返り」などの授業スタイルの
共通実践をし、成果をあげている小学校の例 9 ページ
大津市立比叡平小学校
- ②「家庭学習の充実」と「授業改善」を関連させ成果をあげている中学校の例 11 ページ
米原市立大東中学校
- ③教員の励まし、声かけなどの支援や学級の子ども同士の温かい関係を重視し、
成果をあげている小学校の例 13 ページ
甲良町立甲良西小学校
- ④授業研究会の積極的な取組や教職員間の協力関係の充実により成果をあげて
いる学校の例 15 ページ
長浜市立虎姫小学校・長浜市立虎姫中学校
- ⑤「校区小中学校連携」と「先行教科をもとにした授業改善」により成果をあげ
ている中学校の例 17 ページ
栗東市立栗東中学校
- ⑤一人ひとりの子どもに応じた指導の工夫を行い、成果をあげている小学校の例 19 ページ
湖南市立水戸小学校

「めあて、自力解決、意見交流、まとめ・振り返り」などの授業スタイルの共通実践をし、成果をあげている小学校の例

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

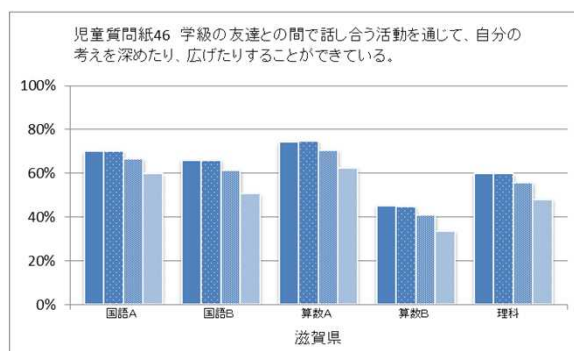
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていることと、学力調査との関連



「難しい」と思わない児童の正答率が高い。

教科ごとの棒グラフは、左から「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」の順

授業の中で、話し合う活動を意図的に設定し、自分の考えを人に説明することで、自分の考えが深まり、学ぶ力が高まっていくことがうかがえます。



学校名	大津市立比叡平小学校
学級数	計 8学級
児童数	142名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

確かな学力を子どもたちに身に付けさせるために、基礎・基本の徹底と学力向上アプローチ事業での授業改善を研究の中心に据え、自分の考えや思いをもって学び合える授業の実現に取り組んでいます。

「学校全体での取組」 共通実践ができる体制づくり

確かな学力を学校全体で取り組めるよう、「比叡平スタイル」として、3年間の中期目標と1年間ごとの短期目標を設定しています。具体的な方策と努力指標、成果指標を示して、改善に生かしています。教員同士が学び合う機会を大切にしながら、学び合いの授業に取り組むことで、確かな学力の定着に取り組んでいます。

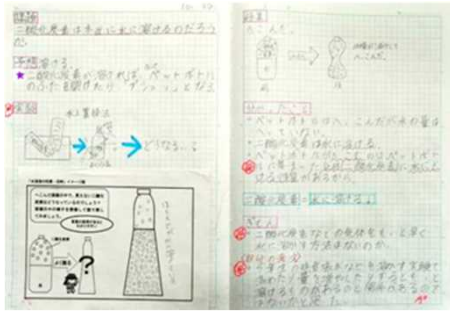
※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)

学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

「授業での取組」（自分の考えや思いを伝えあい学び合う授業）

○自分の言葉で自分の考えを伝える交流の場を取り入れています。

理由を踏まえて話ができるように、考察の過程での話型を示しています。
 <例>
 ○○のときは、○○という理由で、○○になると思います。
 ○○と○○を比べると、○○でした。
 ○○の条件のときは、○○となりました。
 ○○の結果から、○○だということがわかりました。



友だちの考えや意見を書いたり、図や絵を使いイメージ化できるノート作りを指導しています。自分の考えをまとめ、話合ができるよう、考えをまとめられるノートにしています。

「学校全体での取組」（授業+αで学びの基礎を身に付ける）

○基礎・基本を定着させるために5校時前の10分間、帯時間を設定し、全教職員で指導に努めています。

【だらっこタイムの目的】

意図的な話合い活動をするためには、その根拠となる基本的な知識が必要です。基礎的な知識の定着や調べ方や考え方を身に付けられるよう、個別の支援をしています。



○授業と家庭をつなぐ宿題を出すことで、学習の意欲を高めています。

授業で学習したことを家の人に説明する宿題を出し、新しく知ったことを人に伝える喜びを体感させています。

○インゲン豆やトウモロコシの種子をだっしめんやパーミキュライトにまいたとき、肥料をあたえなくても発芽したのはどうしてでしょうか？
 デンプン・葉酸・肥料の3つの言葉を使って説明しましょう。

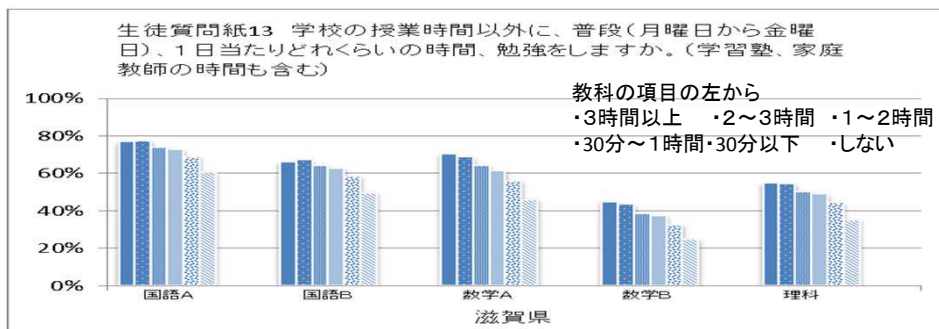
理科の宿題 → 授業と家庭をつなぐノート

ひとことメッセージ
 きらんと3つの言葉をいって説明できました。
 1週間前のことを思い出して書いて。
 色々な豆知識を増やしてくれるといいなと思います。

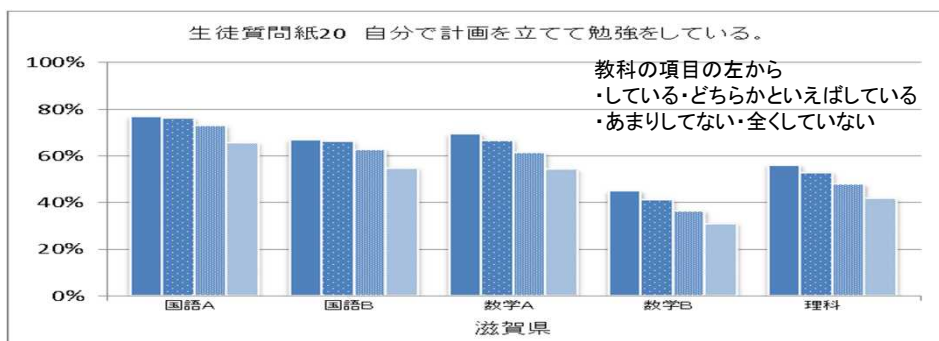
「家庭学習の充実」と「授業改善」を関連させ 成果をあげている中学校の例

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

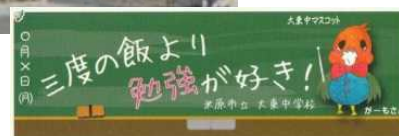
○学びの習慣性「家庭学習の充実」と学力調査との関連



学校の学習時間以外に、家庭などで長く勉強したり、自分で計画立てて勉強している生徒ほど、学ぶ力が高まっていることがうかがえます。



学校名	米原市立大東中学校
学級数	計 14学級
生徒数	332名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

「将来の生き方を考え、今をがんばる大東中生の育成～学力の向上と自尊感情の育成をめざして～」を研究テーマに、学習意欲や思考力・表現力を育むための授業の工夫改善や、授業と関連させた家庭学習の習慣化に取り組んでいます。

授業では、めあてやねらいを明確にするとともに、学習中に考えたことをノートにメモしたり、グループで学び合ったり、振り返りを書いたり、自ら進んで行う学習に取り組んでいます。家庭学習では、自主学習ノートの推進や、次の授業で活用できる課題学習「Yes! Study. 家(いえ)スタディーワーク」に取り組み、学習の習慣化を推進しています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

校内に「学力向上部会」と「生き方チャレンジ部会」の2つの部会を組織し、学力向上とともに、生徒会活動の充実を図るなど教員と生徒が一体となった取組を推進しています。

学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

「授業での取組」 思考力・表現力(考えてまとめる力)の育成

○各教科で、生徒が話し合い、考えを深め合う活動を意図的に設定し、学び合う力を育てています。

英語科の学習では、自分の経験や考えをもとに、流れのあるまとまった英文を書くために、ペアやグループの中で学び合う場を設定しています。



互いが作った英文を読み合ったり、英文の内容を分析したりするなど学びを深めていきます。

○授業のめあてに対する「授業の振り返り」を重視しています。

単元	11(水)	12(木)	13(金)	14(土)	15(日)	16(月)	17(火)	18(水)	19(木)	20(金)	21(土)	22(日)	23(月)	24(火)	25(水)	26(木)	28(土)
英語	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策	英検対策
数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学
理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科
社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会
国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科
総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

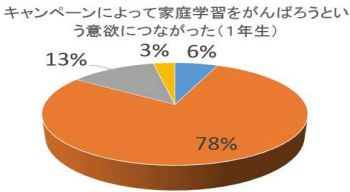
生徒が自分で
 ○単元の目標(つけない力)
 ○本時の目標
 ○授業で学んだこと
 ○単元で学んだこと
 をまとめていくことで、自らの学びを確かめながら学習を進めていきます。

「学校全体での取組」 授業と関連させた家庭学習の習慣化

○「Yes! Study. 家スタディーワーク」の推進で家庭学習の習慣化を図っています。

3年2学期期末テスト学習計画表		DO YOUR BEST! (ベストを尽くせ!)																
		11(水)	12(木)	13(金)	14(土)	15(日)	16(月)	17(火)	18(水)	19(木)	20(金)	21(土)	22(日)	23(月)	24(火)	25(水)	26(木)	28(土)
英語	英検対策	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
数学	数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理科	理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国語	国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽	音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体育	体育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家庭科	家庭科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合	総合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
特別活動	特別活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

家庭学習の取組を生徒自身が校内放送するなど、定期的に「家スタディーワーク」キャンペーンを実施しています。実施後のアンケートの調査結果では、多くの生徒が学習の意欲を高めています。



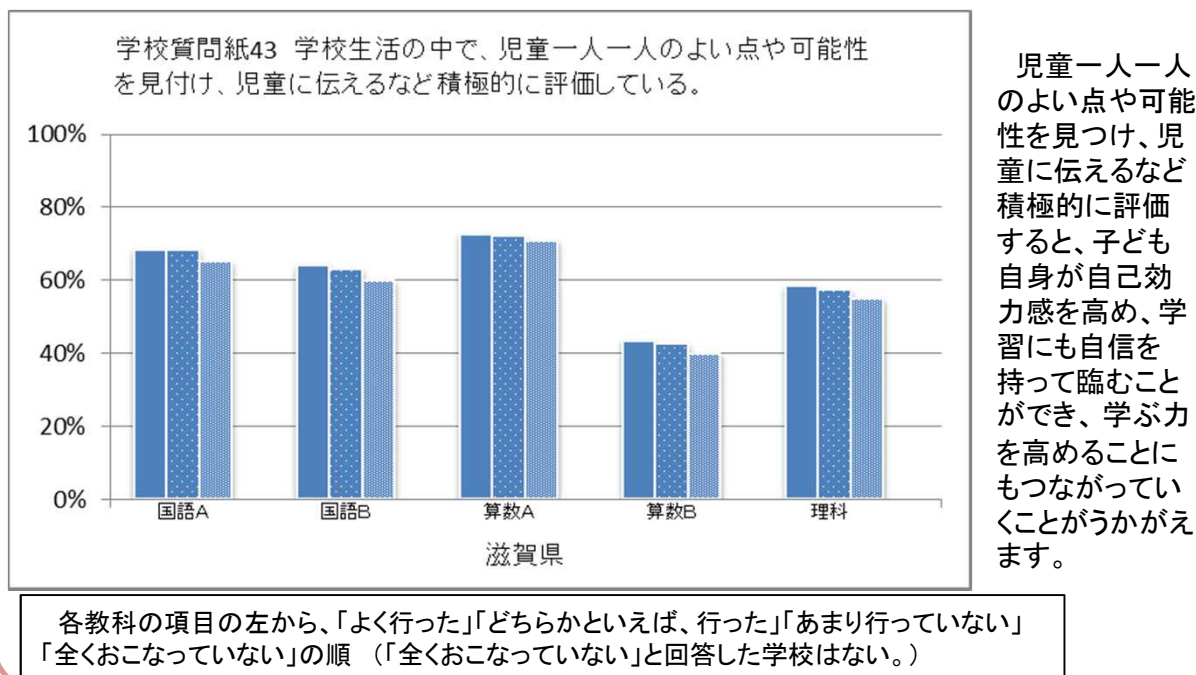
家庭学習への意欲を高め、成果が実感できる取組を進めています。定期テストに向け、学習内容や時間を記録しがんばりがわかるようにしています。

下校時などには、校内に「Yesterday」の音楽が流れます。

教員の励まし、声かけなどの支援や学級の子ども同士の 温かい関係を重視し、成果をあげている小学校の例

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

○「児童一人一人のよい点や可能性を見付け、積極的に評価している」とことと学力調査との関連



学校名	甲良町立甲良西小学校
学級数	計 9学級
児童数	184名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

「算数的活動」の効果的な指導を通して主体的に考えられる子どもの姿を目指しています。しんどい子に視点を置いた具体的で明確な課題設定をし、子どもが見通しをもって課題に取り組み、「考える楽しさ」を味わうことによって、わかる喜びが体得できる授業をつくっています。また、仲間とともに学ぶ場を大切に、落ち着いた雰囲気の中で学習を進める学習規範や習慣を確立しています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

信頼関係を基に安心できる仲間づくりを進めたり、豊かな発想を持ち、自ら学ぶ習慣と学習規律の確立をめざしたりすることで、子どもたちが「安心」を実感し、「意欲」をもてる学級経営を行っています。

学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

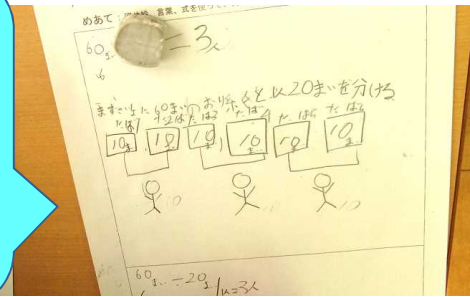
「授業での取組」

どの子もわかる・できる授業づくり

○「課題設定の工夫」や「算数的活動」を通して、主体的に学ぶことから、どの子にも分かる、できる授業づくりを図っています。

考える力を身につけ、主体的に問題解決できる児童を育成するために・・・

- ①「考える楽しさ」の追究
- ②児童が問題解決に目的意識を持ち、主体的に取り組む活動
- ③学び合う場の工夫
- ④課題解決学習に向けた教師の見取り



「子どもの視点にあった課題設定」を意識し、算数的活動を通して、わかる・できる喜びの体験を積み上げています。



しんどい立場の子どものつまずきに対応した教材を作り出したり、指導方法を工夫したりしたことにより、見通しがもて、意欲が高まり、主体的に問題解決に取り組む姿が見られるようになります。

「学校全体での取組」

どの子も安心できる学級づくり

生活に潤いと楽しさを感じる特別活動

○安心できる生活をするために、信頼関係を深める仲間づくりを支援します。

いのち・人権を尊重する精神を基に、互いに認め合い励まし合いながら自立できる子どもの育成をめざしています。教師像として「耳を傾け（傾聴）足を運ぶ（足尊）教師 人間性・指導力の向上に努める」を内外に示しています。



学校生活を豊かにする学級・学年行事を工夫しています。



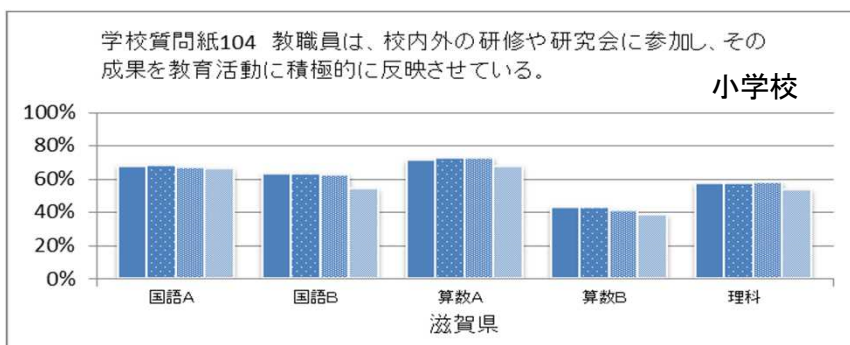
「学ぶ力」の基礎基本を育てるだけでなく、「人とかかわる力」の基礎基本を育てることに教育実践の重点を置いています。



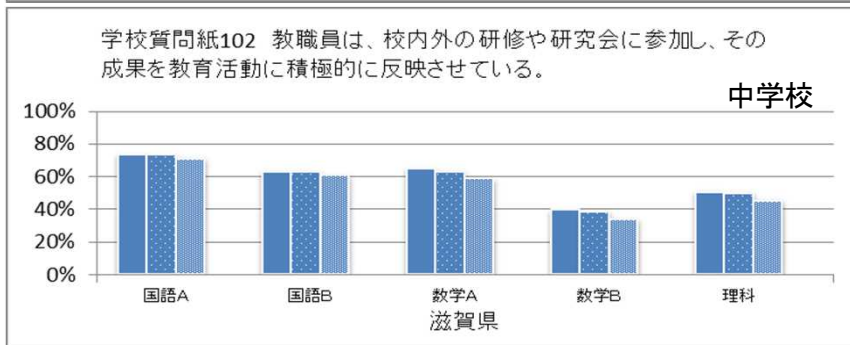
授業研究会の積極的な取組や教職員間の協力関係の充実により 成果をあげている学校の例

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

○教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。



校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に反映させている学校ほど、子どもたちの学ぶ力が高まっている傾向がみられます。



教科の項目の左からよくしている
どちらかといえばしている
あまりしていない
全くしていない

※中学校で「全くしていない」と回答した学校はなし

学校名	長浜市立 虎姫小学校	学校名	長浜市立 虎姫中学校
学級数	計 10学級	学級数	計 7学級
児童数	253名	生徒数	161名



虎姫小学校

虎姫中学校

○学校の特徴

「授業での取組」学ぶ力を伸ばす授業づくり（小中連携を大切にしたい取組）

学力向上アプローチ事業をもとに校内研究の充実に取り組み、「なぜ」を問う授業展開や、思考過程がわかるノート指導、意欲が高まるような本時のねらいの提示など、小・中共通の実践を積み重ねて、授業改善を図っている。

「学校全体の取組」共通実践ができる体制づくり

小学校では全クラスで研究授業を行い、事前の指導案検討では、全教員がグループ学習の充実や、思考過程のわかるノート作りを柱に指導案に目を通し、授業改善に取り組んでいる。小学校の取組を受けて、中学校ではさらに、思考力の向上を図るため、全教科・全領域で共通実践を積み上げている。

※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)

※平成27年度小中連携推進事業(県教育委員会指定)

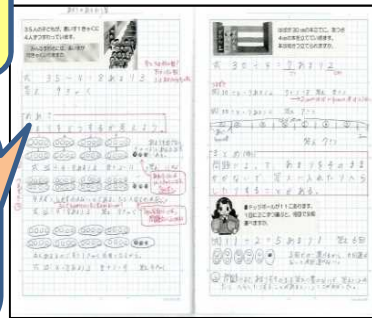
学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

「授業での取組」 筋道を立てて考え、根拠をもとに説明する授業実践

○なぜを問う授業展開や学習課題の工夫

いきなり本時のめあてを提示するのではなく、子どもの活動から始め、「なぜ?」「あれ?」という疑問や、子どものつまずきからめあてを確認、提示して授業を展開していきます。

虎姫小学校の実践



○自力解決の過程がわかるノート指導

教師も子どもと同じノートを使い、授業前に教師が自分のノートに授業の流れだけでなく、子どもの予想されるつまずきや、それに応じた支援なども書き込んでいます。子どものノートには、思考過程が残るように、自分の考えを大事にし、友達の考えやポイントを書き加えていきます。

○互いのかかわりの中で思考過程を表出するグループ学習やペア学習



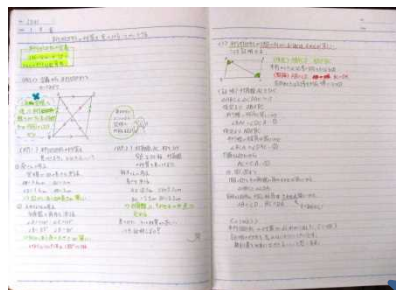
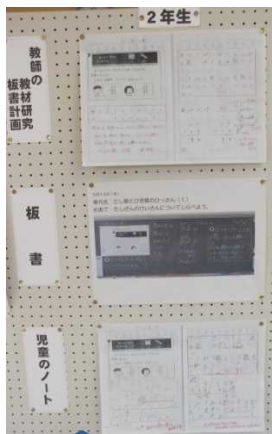
ねらいや子どもの実態に応じて、グループ学習やペア学習をします。発表会にするのではなく、ノートをつきあわせて、相手にわかってもらえるように意識して交流します。

「学校全体での取組」 中学校区全体で取り組む共通実践

○小・中のつながりを意識した共通実践

どの教科でもペア学習やグループ学習の充実に重点を置いて、共通実践を積み、学ぶ意欲の向上や思考力・表現力向上につなげています。

虎姫中学校の実践



小学校のノート指導の実践が、中学校での思考過程のわかるノート作りの実践に生きています。自分の考えを書き込み、友達の意見を書き加え、わかりやすくまとめています。

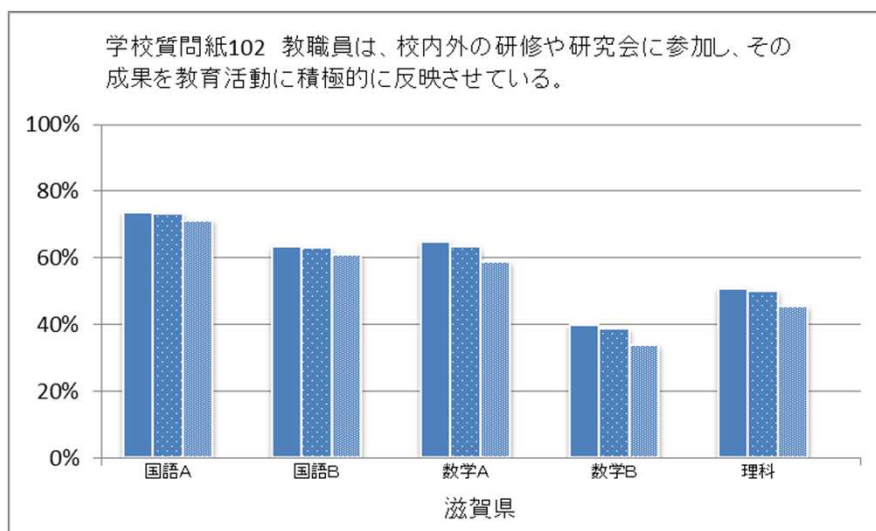
小学校で実践しているノート分析

小中の共通した実践により、より効果的な成果が期待できます。

「校区小中学校連携」と「先行教科をもとにした授業改善」により 成果をあげている中学校の例

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

○教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。



校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に反映させている学校ほど、学ぶ力が高まっていることがうかがえます。

各教科の棒グラフは左から順に
よくしている
どちらかといえばしている
あまりしていない
全くしていない

※「全くしていない」と回答した学校はありません。

学校名	栗東市立栗東中学校
学級数	計 24学級
児童数	679名



○学校の特徴

「校区小中学校連携」

栗東中学校区に「確かな学力」向上推進会議を設置して、授業改善分科会・学習規律分科会・心の教育分科会の3つの部会を組織し、それらの部会を受けて校区内の各学校にも同様の部会を設置することで、4小中学校合同の授業実践研究を進めている。

*「確かな学力」向上推進会議(栗東中学校区)

(・校長・教頭による会議3回／年間 ・3つの分科会による会議3回／年間)計6回
校区内の会議を受け、各学校においても年間を通して研究授業を実施している。

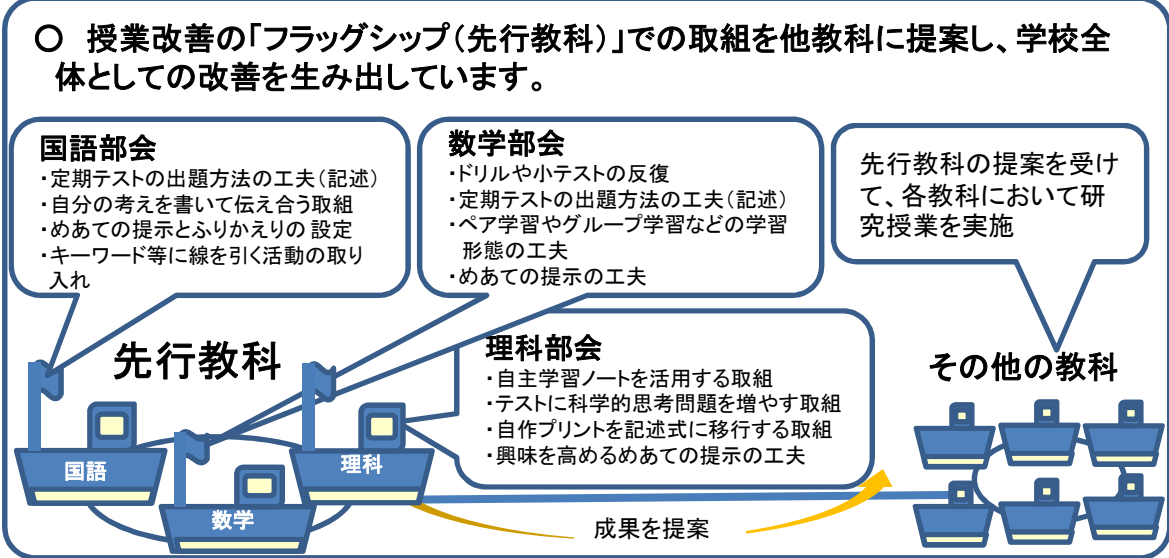
○「先行教科をもとにした授業改善」

国語・数学・理科の3教科を「フラッグシップ(先行教科)」として設定し、授業改善の視点と取組を他教科に向けて提案することで、授業改善を推進している。

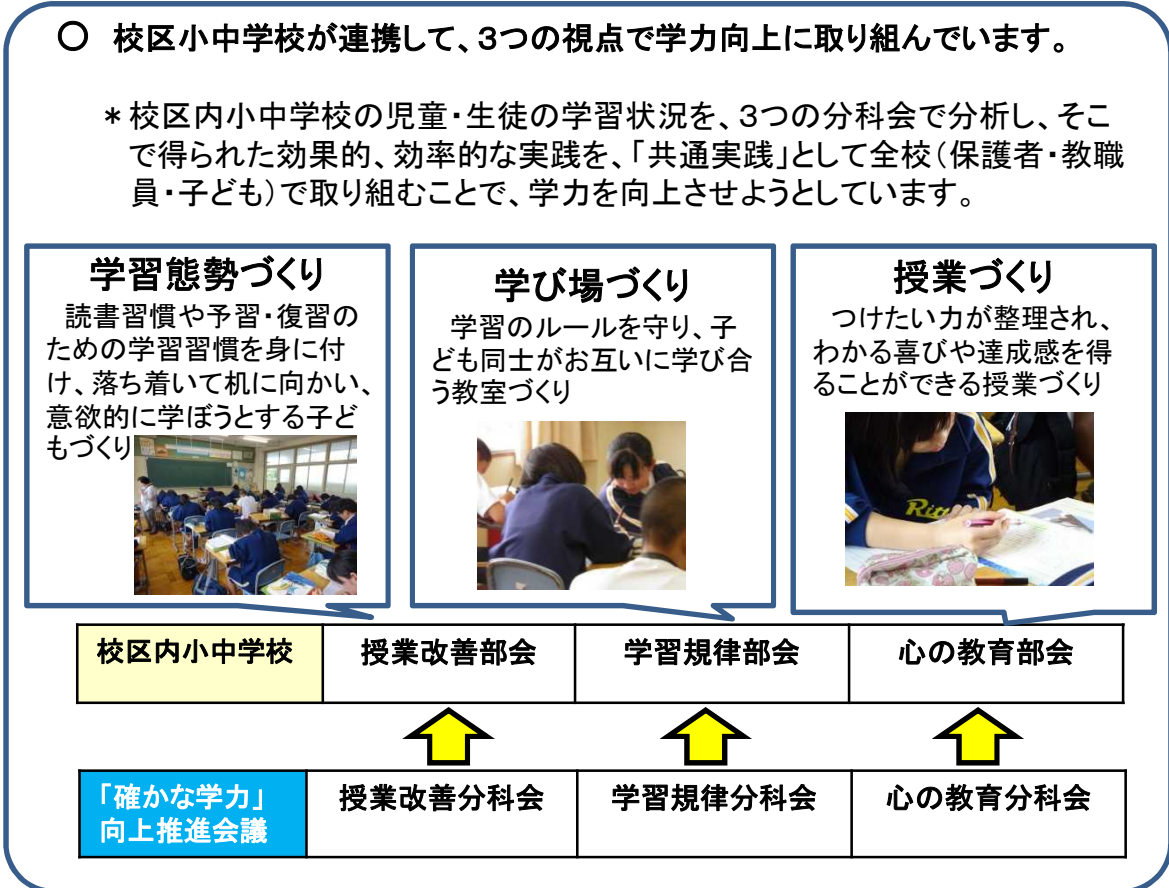
※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)

学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

「授業での取組」 先行教科の取組をもとにした授業改善



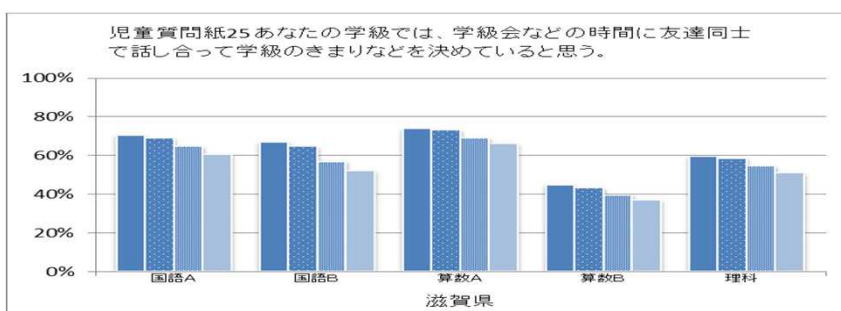
「学校全体での取組」 校区小中学校連携による学力向上



一人ひとりの子どもに応じた指導の工夫を行い 成果をあげている小学校の例

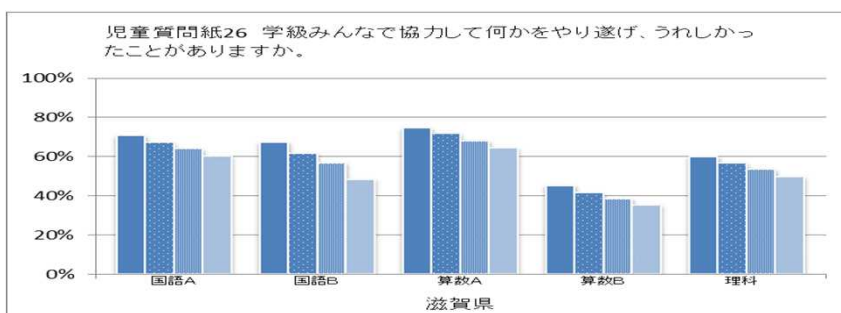
平成27年度全国学力・学習状況調査の結果における特徴

○学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。



多様な子どもたち一人ひとりが、違いを認めながら友達同士で話し合う時間をつくったり、学級みんなで協力して何かをやり遂げるような経験をしている児童ほど、学ぶ力が高まっていることがうかがえます。

○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか？



教科の項目の左から「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」の順

学校名	湖南市立水戸小学校
学級数	計 18学級
児童数	402名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の創造～だれにでもやさしく、だれもがわかる国語科の授業をめざして～」を研究テーマに、共通実践として、子どもたちに身につけさせたい言葉の力に注目した単元構想による国語科の授業に取り組んでいます。「授業改善」「学習環境」「基礎学力の定着」「学習規律」「学習習慣」の観点から教職員の授業力向上を目指しています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

インクルーシブ教育の視点をベースにした授業研究と、支援や配慮のあり方について全教職員で取り組んでいます。誰にでも優しくかつ易しくもある学校「水戸スタイル」を実践し、誰もが「わかった」と言える学習支援や授業づくりを進めています。

※平成25・26・27年度 インクルーシブ教育システム構築モデルスクール事業(文部科学省指定)

※平成27年度 第41回滋賀県国語教育研究大会発表指定校

学ぶ力や学習状況の改善に寄与したと考えられる取組

「授業での取組」 日常的に交流する授業を行うための授業改善

○ 互いが信頼し合うことを基盤にして、子ども一人一人の主体的な思考や判断する力を育てています。

友だちと交流

ペアやグループの学習場面を設定し、自分だけの学びではわからなかったことを解決していきます。



学級のみならず交流

赤白帽子でいろいろな考えの友だちと交流できるようにします。教室の机を下げて広いスペースで行います。



地域の方が授業などに参画

休み時間、子どもたちが覚えた九九の聞き取りもしていただきます。



「学校全体での取組」ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

○ 「授業の湖南省スタイル」を全教科で共通実践しています。

過程	段階
	【0】環境整備
導入	【1】本時のめあてを自覚する
展開	【2】課題に対する自分の考えを書く
	【3】それぞれの考えを交流する (日常的に交流する授業)
	【4】めあてに応じたまとめをする
終末	【5】学習をふりかえる

授業が始まる前に黒板をきれいにしたり、身の回りの整理整頓をしたりすることで、みんなが気持ちよく学習できるようになると考え実践しています。

物語の全文掲示をしたり、授業の流れを示したりして、誰もが目で見てわかるようにするなど有効な支援方策の研究に取り組んでいます。



○ 誰もが「わかった」と言える学習支援！
 ・言語環境を整える工夫をしています。
 ・全体に対する支援のあり方や合理的配慮を意識した授業をしています。